

自転車で公道を走る時は交通法規を守りましょう!



全日本選手権 MTB DHI 男子エリート優勝の井本はじめ



第8回全日本自転車競技選手権大会ロードレース……………2

第30回全日本マウンテンバイク選手権大会……………4

第73回全日本大学対抗選手権自転車競技大会……………8

平成29年度全国高等学校総合体育大会自転車競技大会10
各大会日本代表選手団……………11

2017 UCI BMX 世界選手権大会……………13

2017 UCI マウンテンバイク世界選手権大会……………14

2017 UCI ジュニア・トラック世界選手権大会……………16

競技大会結果……………18

専門委員会委員一覧……………19

連盟の動き/今後の大会予定……………20

JOCジュニアオリンピックカップ……………21

2017 UCI パラロード世界選手権……………24



この広報誌は、
競輪の補助により
作成しました。

<http://hojo.keirin-autorace.or.jp>



第8回全日本自転車競技選手権大会 ロードレース 男子ジュニア、男子U17+U15、女子ジュニア+U17

男子ジュニアのスタート直後

8月6日、島根県益田市において、第8回全日本自転車競技選手権大会ロードレース（男子ジュニア、男子U17+U15、女子ジュニア+U17）／2017第4回益田チャレンジャーズステージが開催された。この場所で全日本ジュニアロードが開かれるのは2回目となるが、前回とは周回の回り方とスタート・フィニッシュ地点が変更された。また当日は台風の影響に伴い気温が上昇し、39.3℃と日本全国で一番暑い都市となった中での開催となった。

男子U17+U15では、寺田吉騎、大河内将泰、津田悠義が集団から抜け出す。そこから大河内、そして寺田が遅れ、EQADSの津田が一人逃げ切った。

女子ジュニア+U17では、石上夢乃がレース序盤から一人逃げたが、暑さのため集団に吸収される。その後中川がスパートそれに長石が追いつくが、最後は中川が振り切って女子ジュニアチャンピオンとなった。

男子ジュニアについては、気温上昇に伴い周回が1周減らされてのスタートとなった。そして、直近のインターハイ・ロードで1・2フィニッシュした松山城南高校の日野泰静と日野凌羽がこの大会もゴールスプリントを制し、日野泰静が男子ジュニアチャンピオンとなった。



女子のメイン集団



男子ジュニアのゴールスプリント



女子、抜け出した中川と長石

男子 U17_U15 のスタート直前



【競技結果】

第8回全日本自転車競技選手権大会ロードレース
2017 第4回益田チャレンジャーズステージ
(2017/8/6 島根・益田)

男子ジュニア (71.0km)

- 1 日野 泰静 愛媛 松山城南高 1:56:26
- 2 日野 凌羽 愛媛 松山城南高 1:56:27
- 3 松田 祥位 岐阜 岐阜第一高 1:56:27



- 4 佐藤 健 熊本 九州学院高 1:56:27
- 5 松崎 広太 茨城 取手第一高 1:56:28
- 6 西原裕太郎 奈良 榛生昇陽高 1:56:48

男子 U17+U15 (28.4km)

- 1 津田 悠義 愛知 EQADS 44:08
- 2 寺田 吉騎 静岡 磐田北高校 44:27
- 3 渡邊 諒馬 愛媛 松山城南高校 44:27



- 4 篠原 輝利 茨城 ホンヤンス 44:27
- 5 阿部 賢明 新潟 チームインズ 44:27
- 6 天野 壮悠 大阪 千里高校 44:27

女子ジュニア+ U17 (42.6km)

- 1 中川 由理 埼玉 川越工業高 1:24:41
- 2 長石 悠里 鳥取 倉吉西高校 1:24:48
- 3 岩元 杏奈 宮崎 都城工業高 1:26:40



- 4 太郎田水桜 東京 東京成徳高 1:26:40
- 5 平尾 愛菜 岐阜 岐阜第一高 1:26:40
- 6 八木沼侑香 茨城 GROWING 1:26:45



男子 U17_U15 のメイン集団



男子 U17、一人逃げる津田



第30回全日本マウンテンバイク選手権大会

XCO 男子エリートは山本幸平が勝利!

XCO 男子エリートのスタート

XCO 男子エリートの山本



7月21日から23日まで、長野県の富士見パノラマリゾートで、第30回全日本マウンテンバイク選手権大会のダウンヒルとクロスカンントリーが開催された。

女子ユースでは、小林あかりがDHIとXCOを制覇、また母親の小林可奈子がXCO女子エリートで勝利を勝ち取った。

DHI男子エリートでは、井本はじめが勝利。XCOエリートでは、山本幸平が連覇を伸ばした。

XCO女子エリートの小林



XCO 男子ユースのスタート



XCO 男子ジュニアの北林



XCO 男子マスターの品川



XCO 女子U23の佐藤



XCO 男子U23の平林



XCO 女子ジュニアの川口



XCO 女子マスターズの辻

DHI 男子エリートの井本



DHI 女子ユースの小林



DHI 女子エリートの吉川



DHI 男子マスターズの大野



DHI 男子ユースの秋元

【競技結果】

第30回全日本マウンテンバイク選手権大会
(2017/7/21-23 長野・富士見パノラマリゾート)

DHI 男子17-19

- 1 井本はじめ 兵庫 Sram 2:14.578
- 2 清水一輝 愛知 Patrol m. 2:14.994
- 3 井岡 佑介 愛知 重力技研 2:15.649



DHI 女子17-19

- 1 吉川千香子 愛知 DKMC 2:50.980
- 2 中川 弘佳 大阪 Lovespo 2:55.040
- 3 富田 敬子 奈良 Acciarpone 3:00.123



DHI 男子1-3

- 1 秋元 拓海 福島 Paxcycle 2:23.600
- 2 山田 淳一 愛知 重力技研 2:32.071
- 3 石井 日高 神奈川 MARSH 2:32.408



DHI 女子1-3

- 1 小林あかり 長野 安曇野 3:09.365



DHI 男子マスターズ

- 1 大野 良平 岐阜 KYB 含み損 2:28.951
- 2 吉川 邦岳 愛知 DKMC 2:29.047
- 3 及川 功申 神奈川 GIANT 港北 2:31.553



XCO 男子17-19 (26.76km)

- 1 山本 幸平 北海道 BH-SR 1:35:41.35
- 2 恩田 祐一 新潟 MIYATA 1:36:47.36
- 3 前田 公平 東京 弱虫パノラマ 1:37:49.64



XCO 女子17-19 (17.84km)

- 1 小林可奈子 長野 安曇野 1:21:43.77
- 2 今井 美穂 群馬 SCOTT 1:25:38.09
- 3 橋口 陽子 東京 轆屋 1:27:41.96



XCO 男子U23 (22.3km)

- 1 平林 安里 長野 Specialized 1:21:41.23
- 2 竹内 遼 神奈川 drawer 1:23:59.52
- 3 山田 将輝 長野 MIYATA 1:24:27.66



XCO 女子U23 (13.38km)

- 1 佐藤 寿美 神奈川 drawer 1:03:50.24
- 2 寺田 有希 愛知 自転車村 1:07:16.30
- 3 中島 峻歩 三重 WIAWIS 1:18:15.87



XCO 男子ジュニア (17.84km)

- 1 北林 力 長野 ProRide 1:08:07.91
- 2 神永 真一 大阪 ProRide 1:08:40.93
- 3 村上功太郎 愛媛 松山工高 1:09:49.55



XCO 女子ジュニア (13.38km)

- 1 川口うらら 兵庫 Sonic-R. 57:54.30
- 2 山田 夕貴 北海道 BG8 1:04:21.00
- 3 松本 璃奈 長野 GRM 1:05:57.08



XCO 男子1-3 (13.38km)

- 1 山口 創平 滋賀 ProRide 50:42.57
- 2 松本 一成 長野 SCOTT 51:58.73
- 3 中島 渉 埼玉 Limited846 54:39.68



XCO 女子1-3 (8.92km)

- 1 小林あかり 長野 安曇野 40:31.53
- 2 渡部 春雅 神奈川 GIANT 港北 42:11.31



XCO 男子マスターズ (17.84km)

- 1 品川 真寛 神奈川 Youcan 1:09:41.13
- 2 竹谷 賢二 埼玉 Specialized 1:10:38.62
- 3 白石 真悟 山口 スドリキョウ 1:12:46.48



XCO 女子マスターズ (8.92km)

- 1 辻 瑞穂 神奈川 Paxproject 50:11.02
- 2 水谷有紀子 三重 BUCYO 51:58.43
- 3 北島 優子 長野 パワースター 1:01:22.53



文部科学大臣杯

第73回全日本大学対抗選手権自転車競技大会

KEIRIN 00

この大会は競輪の補助金を受けて開催されました

日本大学 5年ぶりの復活V、女子は日体大が2回目の総合優勝



男子ロード優勝の武山

第73回全日本大学対抗選手権自転車競技大会（インカレ）は8月31日（木）から9月3日（日）までの4日間、トラック競技が松本市美鈴湖自転車競技場、ロード競技が長野県大町市美麻公道周回特設コースで開催された。

美鈴湖自転車競技場では一昨年に続き二度目のインカレ開催。標高約1,000mと日本で最も高地に所在する

高速バンクとして知られており、前回開催時と同様に今回も多くの学生記録や大会記録が誕生した。男子は9種目中2種目で優勝、全種目入賞を果たした日本大学がトラック総合1位を獲得し、5年ぶりのインカレ制覇に向け弾みをつけた。2位は団体追抜で優勝し、同じく全種目入賞を果たした中央大学、2種目優勝の朝日大学が3位となった。女子は5種目中3種目

を制した日本体育大学がトラック総合1位。優勝こそ無かったが3種目で2位の鹿屋体育大学が2位、2種目で2位の八戸学院大学が3位となった。

会場を大町市美麻地区に移してのロード競技、インカレはこのコースでは4度目の開催となる。一昨年のは雨中でのレースとなったが、今年はこの時期にしては気温が低かったものの、晴天下絶好のコンディションでのレースとなった。男子ロード（176.4km）は最終局面で武山晃輔（日本大）と富尾大地（鹿屋体育大）のマッチレースとなり、最後の上りで抜け出した武山が優勝。3名が10位内に入賞した日本大学がロード総合も優勝を果たした。2位は鹿屋体育大で、このところ学連主催大会での躍進著しい京都産業大が3位となった。

女子ロード（63.0km）は中盤からインカレ連覇を狙う福田咲絵（慶應義塾大）、梶原悠未（筑波大）、中井彩子（鹿屋体育大）3名の争いとなり、上りでのスプリントを制した梶原が優勝した。2位は中井、3位が福田。女



男子チームパーシュート優勝の中央大学

子ロード総合は12点を獲得した鹿屋体育大学が優勝。2位は優勝得点10点獲得の筑波大学、走完9名中3名を占めた日本体育大学が7点を獲得し3位となった。

大学対抗男子総合最終成績は1位が日本大学、第68回大会以来5年ぶり51回目の総合優勝となった。2位は中央大学、5連覇を逃した鹿屋体育大学は3位となった。対抗得点こ

そ日本大学が抜きんてたが、明治大学、朝日大学、京都産業大学、法政大学、中央大学と日本大学を含み6校が種目優勝を果たしており、各レースで拮抗した争いが繰り広げられた見ごたえのあるインカレとなった。今後も各大学切磋琢磨して、3年後の東京五輪に向けてより高いレベルで競技が行われることを期待したい。

女子総合最終成績は1位が日本体

育大学で、3年ぶり2回目の総合優勝を果たした。2位は鹿屋体育大学、出場4種目中3冠を達成した梶原が一人で27点を獲得し、筑波大学が3位となった。かつては大塚歩を擁し女子総合2連覇を果たしたこともある筑波大学だけに、梶原の後に続く選手が現れることを期待したい。

(村田 隆宣)



男子ケイリン決勝のフィニッシュ



男子タンデムスプリントの決勝



女子500mTT優勝の岡本



女子ロード優勝の梶原

【競技結果】

文部科学大臣杯第73回全日本大学対抗選手権自転車競技大会(2017/8/31-9/3 長野・松本市美鈴湖/大町美麻地区)

男子スプリント

- 1 坂井 洋 日本大学
- 2 荒川 仁 明治大学
- 3 堀 航輝 鹿屋体育大学

男子1kmタイムトライアル

- 1 隈園 郷史 明治大学 1:03.464
- 2 坂本 紘規 日本大学 1:03.553
- 3 阿部 将大 鹿屋体育大学 1:03.610

男子ケイリン

- 1 小原 佑太 朝日大学
- 2 坂井 洋 日本大学
- 3 板倉 玄京 明治大学

男子個人パシュート

- 1 松下 綾馬 京都産業大学 4:40.262
- 2 今村 駿介 中央大学 4:44.632
- 3 松本 憲斗 鹿屋体育大学 4:39.231

男子スクラッチ

- 1 近藤 翔馬 法政大学
- 2 沢田桂太郎 日本大学
- 3 高橋 優斗 中央大学

男子ポイントレース

- 1 永田 吏玖 朝日大学 56p
- 2 荒井 佑太 法政大学 44p
- 3 今村 駿介 中央大学 35p

男子タンデムスプリント

- 1 法政大学 鈴木・高橋
- 2 日本大学 照井・山本
- 3 早稲田大学 中井・安倍

男子チームスプリント

- 1 日本大学 坂井・照井・治田 1:00.405
- 2 朝日大学 小原・栗山・志田 1:02.778
- 3 中央大学 橋本・梶原・東矢 1:04.480

男子チームパシュート

- 1 中央大 原井・高橋・橋本・今村 追抜勝
- 2 日本大 草場・坂本・沢田・貝原 OVT
- 3 法政大 荒井・白垣・近藤・渡部 4:16.670

女子500mタイムトライアル

- 1 岡本 二菜 日本体育大学 36.261
- 2 伊藤 花歩 八戸学院大学 36.874
- 3 松本 詩乃 日本体育大学 37.087

女子スプリント

- 1 岡本 二菜 日本体育大学
- 2 西島 叶子 鹿屋体育大学
- 3 松本 詩乃 日本体育大学

女子個人パシュート

- 1 梶原 悠未 筑波大学 3:48.013
- 2 中井 彩子 鹿屋体育大学 3:49.120
- 3 橋本 優弥 鹿屋体育大学 3:49.348

女子ポイントレース

- 1 梶原 悠未 筑波大学 70p
- 2 中井 彩子 鹿屋体育大学 35p
- 3 中村 愛花 日本体育大学 35p

女子チームスプリント

- 1 日本体育大学 岡本・松本 47.514
- 2 八戸学院大学 清水・伊藤 47.626
- 3 順天堂大学 横山・平井 48.904

男子ロードレース

- 1 武山 晃輔 日本大学 4:34:33
- 2 富尾 大地 鹿屋体育大学 4:34:36
- 3 草場 啓吾 日本大学 4:34:55
- 4 樋口 峻明 京都産業大学 4:35:01
- 5 中川 拳 早稲田大学 4:35:12
- 6 岡本 隼 日本大学 4:35:28

女子ロードレース

- 1 梶原 悠未 筑波大学 1:40:35
- 2 中井 彩子 鹿屋体育大学 1:40:42
- 3 福田 咲絵 慶應義塾大学 1:40:51
- 4 谷 伊央里 日本体育大学 1:42:52
- 5 橋本 優弥 鹿屋体育大学 1:45:55
- 6 菅原 朱音 八戸学院大学 1:46:32

平成 29 年度全国高等学校総合体育大会自転車競技大会

男子総合優勝は松山城南高校（愛媛）

7月27日から30日にかけて福島県を舞台に平成29年度全国総合体育大会「はばたけ世界へ南東北総体2017」、及び秩父宮記念杯第68回全国高等学校対抗自転車競技選手権大会、第62回全国高等学校自転車道路競走中央大会が、「繋がる絆 魅せよう僕らの若き力」をスローガンに、厳しい夏の日差しと暑さの中でトラック競技は、いわき平競輪場（周長400m）、ロード競技は石川町・浅川町周回特設コース（総距離99.3km）で4日間の熱戦が繰り広げられた。

トラック競技は、1kmタイムトライアル中野慎詞（紫波総合）、3kmインディビジュアルパーシュート松田祥位（岐阜第一）、スプリント黒瀬浩太郎（崇徳）、4km速度競走細中翔太（岡山工）、ポイントレース日野泰静（松山城南）、スクラッチ矢光孝輔（甲府工）ケイリン塩島高一朗（南大隅）、女子公開種目において500mタイムトライアル藤田まりあ（浦和工）、ケイリン藤田まりあ（浦和工）、スクラッチ池上あかり（祐誠）、ポイントレース松井優佳（南大隅）がそれぞれ個人種目を制した。

1kmタイムトライアルは中野慎詞（紫波総合）が、安定した力強い走りで2位松本秀之介（九州学院）に2秒近い差で制した。

3km個人パーシュート予選においては、屋外バンクでありながらも松田祥位（岐阜第一）、地元福島の角田光（白河実業）の2名が大会記録を更新した。松田の記録3分22秒089は驚異的であり、その圧巻の走りは会場を大いに沸かせた。



男子個人パーシュートの松田

スプリントでは、昨年インターハイ準優勝の梶原海斗が栄冠を目指したが、予選において転倒。思わぬアクシデントに会場も騒然となり残念な

結果となったが、この種目で決勝に進んだ黒瀬（崇徳）、宇賀神（作新学院）の一進一退で3回戦までもつれ込み、インターハイにふさわしい見事な戦いであった。

4km速度競走は、序盤は順次先頭責任を完了する生徒がいる中、終盤集団よりアタックをかけた畑中翔太（岡山工）が、そのまま先頭責任を完了し逃げ切った。



男子ポイントレースの日野

ポイントレースは、序盤から2年生ながら積極的にポイントを重ねた日野泰静（松山城南）が、レースを支配する形となった。最終スプリントでも力強い走りを魅せ最終ポイントを獲得、圧巻の勝利であった。

スクラッチは、混戦のなか集団でのゴールスプリントとなったが、先行する2名の選手を差しきり矢光孝輔（甲府工）が勝利を手にした。

ケイリンは、予選をより安定した力を見せた塩島高一朗（南大隅）が順当に勝ち上がり、4コーナーからの爆発的な伸びをみせ栄冠を手にした。

女子公開競技500mタイムトライアルは、上位100分の数秒を争う僅差となる接戦。制したのは藤田まりあ（浦和工）で、ケイリンも制し2冠に輝いた。

スクラッチは安定した力をみせた水



女子ポイントレース

上あかり（祐誠）、ポイントレースは中野

盤集団落車が起きる中、松井優佳（南大隅）が栄冠を手にした。団体種目では、チームスプリント予選で紫波総合（岩手県）と別府翔青（岩手県）の2チームが大会記録を更新。決勝戦は2走までリードしていた別府翔青を、紫波総合3走の中野慎詞が捉え逆転勝利を果たした。



男子チームスプリント

4kmチームパーシュートでは、榛生昇陽（奈良県）と地元福島・白河実業との決勝戦となった。地元の声援を受けて白河実業も踏ん張るが惜しくも敗れ、榛生昇陽が勝利した。

大会4日目、石川町・浅川町を会場に個人ロードレースが行われた。周回コースは1周13.6kmのアップダウンの厳しいコース。トラック会場での気候とはかわって蒸し暑さも加わり、周回を重ねるうちに次々と選手が集団より遅れをとっていく。シード選手が次々とアタックをかけるが決め手とはならず、終盤飛び出した日野泰静（松山城南）が追走する集団をかわし単独でのゴール、集団でのゴールスプリントを制したのは同じチームの日野凌羽で松山城南高のワンツーフィニッシュで大会の最後を飾った。

トラック競技・ロード競技ともに総合優勝を果たした松山城南高校（愛媛）が学校対抗初優勝を果たし、福島の地にまた新しい歴史が刻まれた。

（高体連自転車競技部 早川 誠司）

【競技結果】

平成29年度全国高等学校総合体育大会自転車競技大会（2017/7/27-30 福島・いわき市 / 石川町・浅川町）

男子スプリント

- 1 黒瀬浩太郎 広島 宗徳高校
- 2 宇賀神怜真 栃木 作新学院高校
- 3 長田 龍拳 静岡 星陵高校

2017 UCI BMX 世界選手権大会 日本代表選手団

大会名 2017 UCI BMX 世界選手権大会

大会期間 2017年7月21日～29日

開催場所 アメリカ合衆国ロックヒル

代表選手団

チームマネージャー マーティン・ウォード (連盟強化スタッフ)

コーチ 三瓶 将廣 (連盟強化スタッフ)

古幡 陵介 (連盟強化スタッフ)

メカニック 光武 正勝 (連盟強化スタッフ)

マッサージ 中山 雅臣 (連盟強化スタッフ)

ルネサンス 猪俣 健一 (BMX 小委員会委員)

総務 高橋 博 (BMX 小委員会委員)

選手

ME 長迫 吉拓 (岡山・MX インターナショナル)

吉村樹希敢 (大阪・Gan Trigger)

MJ 中井 飛馬 (新潟・日本体育大学荏原高等学校)

島田 遼 (広島・近畿大学泉州高等学校)

佐宗 恭 (東京・日出高等学校)

池上 泰地 (大阪・クワハラバイクワークス)

WJ 畠山 紗英 (神奈川・白鷺女子高等学校)

永禮 美瑠 (愛知・名古屋市立西陵高等学校)

丹野 夏波 (神奈川・白鷺女子高等学校)

ツール・ド・ラヴニール 日本代表選手団

大会名 ツール・ド・ラヴニール

大会期間 2017年8月18日～27日

開催場所 フランス

代表選手団

選手 雨澤 毅明 (宇都宮ブリッツェン)

石上 優大 (EQADS/Amical Vélo Club Aix en Provence)

岡 篤志 (宇都宮ブリッツェン)

岡本 隼 (日本大学 / 愛三工業レーシング)

小野寺 玲 (宇都宮ブリッツェン)

山本 大喜 (鹿屋体育大学)

2017年UCIジュニアトラック世界選手権大会 日本代表選手団

大会名 2017年UCIジュニアトラック世界選手権大会

大会期間 2017年8月23日～27日

派遣期間 2017年8月19日～29日

開催場所 イタリア・モンテッキアーリ

代表選手団

監督 折本 裕樹 (JCFジュニア強化育成部会長)

コーチ 山本 宏恒 (JCFジュニア強化育成部会長)

宮本 文晴 (JCFジュニアコーチ・ジュニア強化育成部会長)

メカニック 鉄沢 孝一 (JCF強化支援スタッフ)

スタッフ 横田 弘乃 (現地スタッフ)

選手 中野 慎詞 (岩手・紫波総合高校)

山根 慶太 (鳥取・倉吉西高校)

磯島 成介 (青森・八戸工業高校)

石井 洋輝 (福島・白河実業高校)

佐藤 健 (熊本・九州学院高校)

河野 翔輝 (奈良・榛生昇陽高校)

清水 大樹 (神奈川・横浜高校)

松本 詩乃 (東京・日本体育大学)

山口 伊吹 (長崎・鹿町工業高校)

松井 優佳 (鹿児島・南大隅高校)

池上あかり (福岡・祐誠高校)

石上 夢乃 (神奈川・横浜創学館高校)

男子1kmタイムトライアル

- 1 中野 慎詞 岩手 紫波総合高 1:05.308
- 2 松本秀之助 熊本 九州学院高 1:07.158
- 3 朝倉 智仁 茨城 取手第一高 1:07.219

男子ケリソ

- 1 塩島嵩一郎 鹿児島 南大隈高校
- 2 出口謙一郎 大阪 茨城工科高校
- 3 川副 雷斗 熊本 九州学院高校

男子3km個人バレーシュート

- 1 松田 祥位 岐阜 岐阜第一高 3:28.439
- 2 角田 光 福島 白河実業高 3:36.607
- 3 河野 翔輝 奈良 榛生昇陽高 3:34.179

男子4km速度競走

- 1 細中 翔太 岡山 岡山工業高校
- 2 塩崎 隼秀 愛媛 松山城南高校
- 3 大高 彰馬 福島 白河実業高校

男子スクラッチ (8km)

- 1 矢光 孝輔 山梨 甲府工業高校
- 2 宮崎 大空 熊本 開新高校
- 3 荒川 達郎 埼玉 栄北高校

男子ポイントレース (24km)

- 1 日野 泰静 愛媛 松山城南高校 39p
- 2 小笠原匠海 東京 八王子桑志高校 15p
- 3 馬越 裕之 奈良 榛生昇陽高校 13p

男子チームスプリント

- 1 紫波総合高 中野・高橋・佐藤 1:17.280
- 2 別府翔青高 石川・田仲・長松 1:17.822
- 3 倉吉西高校 保田・山根・中原 1:17.433

男子チームバレーシュート

- 1 榛生昇陽 河野・西原・二宮・馬越 4:24.239
- 2 白河実業 菊池・角田・石井・大高 4:27.577
- 3 松山城南 日野・日野・塩崎・犬塚 4:23.426

男子個人ロードレース

- 1 日野 泰静 愛媛 松山城南高 2:39:44
- 2 日野 凌羽 愛媛 松山城南高 2:40:47
- 3 松崎 広太 茨城 取手一高校 2:40:47
- 4 道見 優太 鹿児島 南大隅高校 2:40:47
- 5 西原裕太郎 奈良 榛生昇陽高 2:40:48
- 6 松村 恭輔 埼玉 栄北高校 2:40:48

男子学校対抗得点

- 1 松山城南高校 愛媛 45p
- 2 榛生昇陽高校 奈良 29p
- 3 白河実業高校 福島 24p

○女子公開競技

500mタイムトライアル

- 1 藤田まりあ 埼玉 浦和工業高 38:125
- 2 鈴木 樹里 愛知 桜丘高校 38:135
- 3 岩元 杏奈 宮崎 都城工業高 38:179

ケリソ

- 1 藤田まりあ 埼玉 浦和工業高校
- 2 増田 夕華 岐阜 岐阜第一高校
- 3 飯田 風音 埼玉 川越工業高校

スクラッチ (6km)

- 1 池上あかり 福岡 祐誠高校
- 2 松井 優佳 鹿児島 南大隈高校
- 3 石村紗和子 宮崎 都城工業高校

ポイントレース (12km)

- 1 松井 優佳 鹿児島 南大隈高校 19p
- 2 池上あかり 福岡 祐誠高校 18p
- 3 太郎田水桜 東京 東京成徳高校 10p

Tour de DMZ 2017 日本代表選手団

大会名 Tour de DMZ 2017

大会期間 2017年9月3日～6日

派遣期間 2017年9月1日～7日

開催場所 大韓民国

代表選手団

監督 柿木 孝之 (JCF 強化コーチ・ジュニア強化育成部会員)

コーチ 市野 育人 (JCF ジュニア強化育成支援スタッフ)

六峰 亘 (JCF ジュニア強化育成支援スタッフ)

選手 篠田 幸希 (群馬・日本体育大学)

小野寺 慶 (栃木・真岡工業高校)

佐藤 健 (熊本・九州学院高校)

蠣崎 優仁 (静岡・伊豆総合高校)

松田 祥位 (岐阜・岐阜第一高校)

西原裕太郎 (奈良・榛生昇陽高校)

川口うらら (兵庫・龍野高校 /Sonic-Racing)

※クロスカントリーリレー：上記選手より4名
ダウンヒル

ME 九島 勇気 (神奈川・玄武 /MONDRAKER)

清水 一輝 (愛知・Patrol Mountain Downhill Team)

井本はじめ (兵庫・Sram/Santacruz)

MJ 井岡 佑介 (愛知・重力技研 /GLcomponents)

宇津孝太郎 (神奈川・&stream…小川輪業)

2017年ロード世界選手権大会 日本代表選手団

大会名 2017年ロード世界選手権大会

大会期間 2017年9月17日～24日

派遣期間 2017年9月15日～26日

開催場所 ノルウエー・ベルゲン

代表選手団

監督 浅田 顕 (選手強化コーチ)

コーチ 柿木 孝之 (選手強化コーチ)

橋川 健 (選手強化コーチ)

メカニック 斉藤 健吾 (選手強化支援スタッフ)

高橋 優平 (選手強化支援スタッフ)

中村 仁 (選手強化支援スタッフ)

マッサー 宮島 正典 (選手強化支援スタッフ)

穴田 悠吾 (選手強化支援スタッフ)

ドクター 内田 彰子 (つくば体力医学研究所)

総務 貝塚 直子 (JCF 事務局)

選手

ME 新城 幸也 (JPCA・BAHARAIN MERIDA)

WE 與那嶺恵理 (茨城・FDJ Nouvelle Aquitaine Futuroscope) ※ TT

梶原 悠未 (埼玉・筑波大学) ※ TT

MU 小野寺 玲 (栃木・宇都宮ブリッツェン) ※ TT

岡本 隼 (和歌山・日本大学 /愛三工業レーシング)

雨澤 毅明 (栃木・宇都宮ブリッツェン)

岡 篤志 (栃木・宇都宮ブリッツェン) ※ TT

山本 大喜 (奈良・鹿屋体育大学)

MJ 松田 祥位 (岐阜・岐阜第一高校) ※ TT

小野寺 慶 (栃木・真岡工業高校)

蠣崎 優仁 (静岡・伊豆総合高校)

WJ 下山美寿々 (大阪・大阪教育大学附属天王寺高校) ※ TT

2017年MTB世界選手権大会 日本代表選手団

大会名 2017年MTB世界選手権大会

大会期間 2017年9月5日～10日

派遣期間 2017年9月2日～11日

開催場所 オーストラリア・ケアンズ

代表選手団

監督 鈴木 雷太 (JCF MTB コーチ)

メカニック 白井 三善 (JCF 強化支援スタッフ)

藤田 知高 (JCF 強化支援スタッフ)

マッサー 中山 真臣 (JCF 強化支援スタッフ)

スタッフ 軽部 修子 (JCF 強化支援スタッフ)

ドクター 金井 貴夫 (JCF 強化支援スタッフ)

選手 クロスカントリー

ME 山本 幸平 (北海道・BH-SRSUNTOUR-KMC)

前田 公平 (東京・弱虫ペダルサイクリングチーム)

MU 平林 安里 (長野・SPECIALIZED RACING JAPAN)

山田 将輝 (長野・MIYATA-MERIDA BIKING TEAM)

上野 蓮 (福岡・MASAYA YOUNG RIDERS)

MJ 村上功太郎 (愛媛・松山工業高校)

北林 力 (長野・ProRide)

神永 真一 (大阪・ProRide)

WJ 山田 夕貴 (北海道・滝川西高等学校 /TEAM BG8)



DESCENTE



Design for Sports

株式会社デサント

<http://www.descente.co.jp/>

2017 UCI BMX 世界選手権大会

男女ジュニアの中井・畠山が入賞を果たす！



男子ジュニア 4位の中井



女子ジュニア 5位の畠山

アメリカサウスカロライナ州ロックヒルにて2017 UCI BMX 世界選手権大会が開幕。BMX 世界選手権大会は5歳から年齢別に分かれて参加ができ、日本からはチャンピオンシップカテゴリーに9名、チャレンジカテゴリーに49名が参加。

最初の4日間はチャレンジカテゴリーが行われ、初日のクルーザークラスには5名が出場した。4名が予選を抜け1/8決勝へと駒を進めたが、いずれの選手も世界の壁を崩すことが出来ず1/8敗退となった。

大会2日目はBoys5歳から11歳、

Girls5歳から12歳までの12カテゴリーが行われた。日本からは男女合わせて24名が出場し、Girls5-7クラスで澤田茉奈(7歳/埼玉)が5位入賞を果たした。初めての世界選手権大会出場である澤田は、予選から強豪を抑え決勝進出。決勝では地元アメリカ選手が5名を占める中でも素晴らしい走りを見せ5位となった。

大会3日目はBoys12歳から16歳、Girls12歳から16歳までのカテゴリーで行われた。日本からは男女合わせて15名が出場した。前日の12歳以下カテゴリーレースから比べて格段にス

ピード、テクニックもあがるクラスでも決勝進出が期待されたが、健闘虚しく決勝進出者を出す事は出来ず、日本選手最高位はGirls15クラスの薮田寿衣(大阪)10位だった。

大会4日目、チャレンジカテゴリー最終日は男子17歳以上、女子17歳以上の全員8カテゴリーが行われ、日本からは男女合わせて7名が出場した。天候の関係から、予選3モトシステムから2モトシステムへ変更されたが、予選通過者は男子1名、女子2名となった。残念ながら3名とも1/8決勝にて敗退し、チャレンジクラス全クラスを終える事となった。

7月29日の最終日は、チャンピオンシップカテゴリーのレースが行われた。男子ジュニアで中井飛馬(新潟/日体大荏原高校)が4位、女子ジュニアで畠山紗英(神奈川/白鷗女子高校)が5位にそれぞれ入賞。男子エリートの長迫吉拓(岡山/MXインターナショナル)は、1/8決勝で敗退の34位だった。畠山の入賞は昨年のコンピミア・メデジン大会の4位に続く2年連続となった。(三瓶 将廣)

【競技結果】

BMX 世界選手権大会
(2017/7/25-29 アメリカ・ロッキル)

男子U17

- 1 SHARRAH Corben USA
- 2 ANDRE Sylvain FRA
- 3 DAUDET Joris FRA
- 34 長迫 吉拓 岡山 MX インターナショナル
- 69 吉村樹希敢 大阪 Gan Trigger

女子U17

- 1 POST Alise USA
- 2 BUCHANAN Caroline AUS
- 3 PAJON Mariana COL

男子ジュニア

- 1 BUTTI Cedric SUI
- 2 VAN DE GROENENDAAL Kevin NED
- 3 STRAZDINS Mikus LAT
- 4 中井 飛馬 新潟 日体大荏原高校
- 21 池上 泰地 大阪 クハラバ イワークス
- 49 佐宗 恭 東京 日出高等学校
- 50 島田 遼 広島 近畿大学泉州高校

女子ジュニア

- 1 SHRIEVER Bethany GBR
- 2 SAKAKIBARA Saya AUS
- 3 PETERSONE Vineta LAT
- 5 畠山 紗英 神奈川 白鷗女子高等学校
- 21 丹野 夏波 神奈川 白鷗女子高等学校
- 23 永禮 美瑠 愛知 名古屋市立西陵高校

2017 UCI マウンテンバイク世界選手権大会

チームリレーが16位



オーストラリア・ケアンズで開催されたMTB世界選手権、最初の種目はチームリレーで18か国が参加。今年からルール変更で昨年までの4名から5名で各国エントリーとなり、日本は平林安里、山本幸平、北林力、川口うらら、山田夕貴の順にスタート。スタートに自信のある平林が右側からスタート一列の集団後方で進むが、後半でチェーントラブルがあり一時ランニングで凌ぐ場面がでてしまい、大きく後退して17位で山本へ。山本は昨年同じコースで開催されたW杯で15位の成績を残しており、自信をもって走り切り12分25秒で周回した。このタイムは全体の中でも素晴らしいタイムで、北林へ。第三走者は女子が多く北林も抜いていくのに苦労したが、13分35秒で11位までポジションを上げて川口へ。難しいセクションの得意な川口だったが、最初のセクションで前転する大きな落車をしてしまい、リズムがつかめないうま走り切り15位で山田へ。山田はアンカークラッシュで男子が多い中、無難に走り切り16位でゴールを迎えた。

ヨーロッパとは違うフロー系のセクションが多いコースの中、日本人選手は走り方や技量的には負けていない部分も見受けられたが、スピードの違いがまだあるのも明確になった厳しい結果となったレースであった。

大会二日目はXCO男女ジュニアの決勝が行われた。灼熱で固められた一本のトラックが右へ左へ上に下にとねりながら続くコース。試走など一人で走るにはスムーズで気持ちよく、エキサイティングなパートもある変化に富んでいるコースだが、集団となると前走者のすさまじい砂埃が立ち上がり、一瞬にして視界を消し去ってしまう難しさもある。

女子ジュニアは13時から行われた。日本からは川口と山田の2名がエントリー。川口は先日アメリカで開催されたUCIジュニアシリーズでも優勝しており、スタートは2列目からスタート。スタートループは13位で、一本の蛇のようにつながる集団で通過し本コースへ。下りの得意な川口はセクションでのポジションアップを狙っていったが後輪をパンク、32位まで落ちてしまった。しかしそこからの追い上げは素晴らしく24位までポジションを上げてゴールした。最終ラップが一番タイムもよかったことから、パンク後前走者を抜いていくのが障害になっていたことがタイムからもわかる。

山田はスタート位置と同じくらいの、集団後方で本コースへ入っていった。途中ネットに引っかかる落車などもあったが、攻める場所と落ち着いていく場所を見極める精度が徐々に上がり、ギリギリではあったが初完走を果たした。

男子ジュニア、日本からは北林力、村上功太郎、神永真一の3名がエントリー。スタートから密度が高く、最初のポジション争いを全員が意識しているのがわかるほどだ。第1コーナーではやはり小さめであったが落車があった。北林が日本勢の先頭で、数珠繋ぎの集団で本コースへ。密度と速度が速い分砂埃がすごい。北林が1周目の後半に落車をしてしまい、頭を打ち脳震盪でリタイヤとなってしまった。

村上は2周目後半で後輪を岩にヒットさせパンクしてしまい、3周目最初のピットでホイール交換。神永はほぼ最後尾からのスタートながら、ストップ＆ゴーの多い集団最後尾でしっかりと粘った走りを見せた。4周目はパンクで後退した村上と同じ5人バックで走り、ゴールは村上50位、神永51位でゴールした。

大会三日目となる9月8日は、DHI男子ジュニアシーディングランと男子エリートタイムドセッションが午前に行われ、午後は男子U23のレースが行われた。

DHI男子ジュニアの井岡佑介は、細かいミスがあったものの全体を通じてまとめた走りでも8位。宇津孝太郎は

キャンパーコーナーでスリップダウンしてしまい46位となった。DHI男子エリートの九島勇気と井本はじめは無難な走りでも、九島57位、井本60位。清水一輝はクラッシュもあり64位で終えた。

14時30分から、XCO男子U23が行われた。スタートグリッドについての殺気立った空気や、密集度はエリート顔負けの雰囲気だった。いかにこのレースが特別で、このコースがファーストコーナーを曲がってからのシングルトラックの位置取りが重要かといったことを感じさせた。日本からは平林安里、上野蓮、山田将輝の3名。平林と上野はほぼ中央から、山田は最右からのスタートとなった。凄まじい密集度とスピード、そして砂埃を立ててレースはスタートした。山田が右列からの流れにしっかりと乗り、スタートでジャンプアップし28位で本コースへ。しかしハイスピードと砂埃で前が見えない中、後輪をパンクさせてしまいピットストップ。単独となって再スタートを切ったが、焦りもあり下りで後輪を再度パンクさせ80%ルールで終了となった。

上野は最後尾からのスタートだったが、北米遠征からの課題である「集団で走る」をとにかく実行し、最後2周は一人で走ることが多くなったが、ギリギリ最終走者でゴールした。期待が持たれた平林だったが、スタートループに目の前で落車回避でストップしたこともあって、54位からの追い上げを強いられた。とにかく前を追うしかない状況で、抜けるところで抜いていくことを繰り返して41位でゴールした。

今回のレースはパンクラッシュであり、特に前半はテックエリアでも各国大忙しの状況だった。このカテゴリーはエリートに負けないレースをしており、UCIレースにもっと参加しポイントをしっかりと獲得してからでないと、スタート位置で負けてしまう。毎レース後方スタートでは苦しいレース展開を余儀なくされるままなので、複数年の計画によってUCIレースを転戦する必要があると感じた。

大会四日目となる9月9日は、XCO男子エリートが行われた。朝が

ら強めの風が吹き、路面が削れた砂はかなり飛ばされて、コースは最高に荒れてはいるがラインが比較の見やすい状況の中行われた。

日本からは山本幸平と前田公平の2名がエントリー。スタート位置は山本が後方3列目中央付近から、前田は最右最後尾からのスタート。ハンドルがぶつかりそうなほどの密集度の中、流石各国のトップが集まるエリート、密集度を保ったまますごいスピードでレースはスタートした。

レースは一列棒状の集団のまま、蛇のようにうねりながら森の中を進んでいく。山本は50位でスタートループを終えた。中盤までは集団で走るが、4周目で集団がバラバラになりだし3名ほどでの走行。後半の爆発力に期待したが、42位でゴールを迎えた。前田は最後尾からのスタートで、集団後方でスタートループを終えた。そのまま集団で走るが、コーナーでバーム外側の砂に前輪を取られての落車もあり、集団から遅れ単独走行になってしまい-2Lapsの62位でレースを終えた。

大会最終日はDHI男子ジュニアと男子エリートの決勝が行われた。コースは高い山が少ないこの地域の特性に合わせて作られており、日本にはない土質でXCOと同じく細かい粒子の砂がギャップに溜まり、目視しにくいのが難点だ。前半はテクニカルで後半はハイスピードのレイアウトで、フィジカルとテクニックの両方を試される。

男子ジュニアは10時05分に宇津孝太郎がスタート。連日の試走で転倒

が多く、本番では落ち着いて走り切り転倒こそしなかったものの、慎重さが裏目に出てタイムが伸びず39位だった。タイムドセッション8位で期待された井岡祐介は10時46分スタート。コース前半、穴にハンドルを取られて転倒してしまっただが、その後は攻め切って走り切り17位でレースを終えた。

男子エリートは14時13分に井本はじめがスタート。中盤のジャンプ手前のコーナーでリヤタイヤが滑り、そのままジャンプセクションに突入したため着地で前輪をぶつけ、スポークが5本飛んでしまうホイール破損で後半まともに走れず64位だった。

14時16分スタートの清水一輝は前半、砂で何度もスリップダウンしかける中何とかこらえて転倒は免れたが、細かいミスが響いて57位。

14時20分スタートの九島勇氣はコース上の木にぶつかりそうになるがラインを変えて避ける。その後のセクションでコーステープに引っかかってしまうミスがあったものの、その他はまとめて走り56位となった。

DHIは特に国内と海外のコース差が大きく、その差は年々開いていくばかりだ。今回はジャンプの大きさや国内にない土質に、終始日本人選手は悩まされた状況であった。それでもエリート選手とジュニア選手、そしてDHI専門メカニックを配置して、チームとしてのまとまりを見せて戦うことができた。今後は色々なパターンのコースに対応できるよう、更なる経験を積んでいく必要性を感じた。(監督 鈴木 雷太)

【競技結果】

**2017MTB 世界選手権大会
(2017/9/5-10 オーストラリア・ケアンズ)**

DHI 男子エリート

1	BRUNI Loic	FRA	3:26.656
2	HANNAH Michael	AUS	3:26.995
3	GWIN Aaron	USA	3:28.623
56	九島 勇氣 神奈川 玄武		3:53.925
57	清水 一輝 愛知 Patrol Mt.		3:54.145
64	井本はじめ 兵庫 Sram		5:03.170

DHI 男子ジュニア

1	WALKER Matt	GBR	3:37.796
2	BREEDEN Joe	GBR	3:41.244
3	HARTENSTERN Max	GER	3:41.774
17	井岡 佑介 愛知 重力技研		3:52.529
39	宇津孝太郎 神奈川 &stream...		4:05.925

XCO 男子エリート (31.7km)

1	SCHURTER Nino	SUI	1:27:44
2	KULHAVY Jaroslav	CZE	1:27:51
3	LITSCHER Thomas	SUI	1:27:59
42	山本 幸平 北海道 BH-SR		1:34:15
62	前田 公平 東京 弱虫ハゲル		-2laps

XCO 男子U23 (27.4km)

1	GAZE Samuel	NZL	1:17:46
2	HATHERLY Alan	RSA	1:17:57
3	BRANDL Maximilian	GER	1:18:37
41	平林 安里 長野 Specialized		1:24:22
61	上野 蓮 福岡 MASAYA		1:29:45
66	山田 将輝 長野 MIYATA		-4laps

XCO 男子ジュニア (23.1km)

1	WRIGHT Cameron	AUS	1:07:56
2	ROTH Joel	SUI	1:08:31
3	JONES Holden	CAN	1:08:40
50	村上功太郎 愛媛 松山工業高		1:17:21
51	神永 真一 大阪 ProRide		1:17:39
	北林 力 長野 ProRide		DNF

XCO 女子ジュニア (18.8 km)

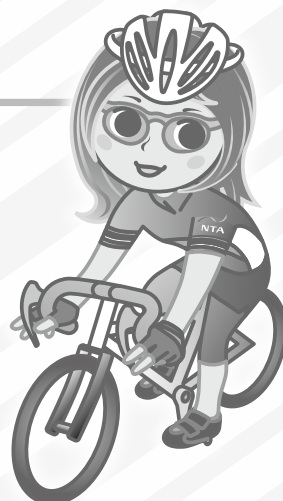
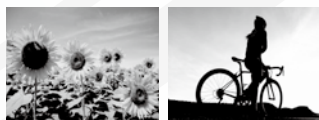
1	STIGGER Laura	AUS	1:03:27
2	LECOMTE Loana	FRA	1:03:42
3	GROD Nadia	SUI	1:05:08
24	川口うらら 兵庫 龍野高校		1:11:06
34	山田 夕貴 北海道 滝川西高校		1:17:59

XCR (21.5km)

1	スイス		1:05:08
2	デンマーク		1:05:32
3	フランス		1:05:32
16	日本 平林・山本・北林・川口・山田		1:13:58

あなたのアンチストレスに、
イチバンでありたい。

スポーツ
×キレイ
×旅



日本旅行
NIPPON TRAVEL AGENCY

たびーら
全ての女子を応援する
日本旅行のマスコット。
イベントにも
駆けつけます。

たびーら 🔍 検索

Facebook たびーら

2017 UCI ジュニア・トラック世界選手権大会

男子チームスプリント 8位、男子ポイント佐藤 4位

2017年世界ジュニアトラックは当初の予定であった中国から、本年4月にイタリア(モンティキアーリ)に変更となった。2017年選手強化事業として昨年10月から行われたトレーニングキャンプの中で、入れ替えや精査された人員を、5月のキャンプで最終選考されたのが今回の派遣選手である。

大会初日、最高気温30℃と真夏のモンティキアーリ(イタリア)であるが、湿度35%と過ごしやすい。宿舎から競技場まで約20分の手移動であるが、その都度、予約を入れなければならぬのが煩雑さを感じさせた。

大会初日は女子チームパーシュート予選から始まった。出場メンバーは松本(日体大)・山口(鹿町工業)・池上(祐誠)・松井(南大隅)で臨んだ。幾度も練習を重ね、6月には選手から合宿要望もあるなど、やる気に満ちたメンバーである。1周目は予定ペースよりもオーバーペースで入ってしまう。異国へ来て大きなプレッシャーの中、自己コントロールすることの難しさを感じる。隊列は4走の松井が離れ気味で、1kmを1分10秒で通過した。その後一定ペースの中、予想外に山口が離れてしまい3名でゴールした。記録は4分49秒639の10位で終わった。目標タイムとされた4分43秒を大きく下回ってしまった。1位通過イタリアの4分23秒台は日本国内ジュニア男子並みタイムであり、世界との差を感じさせた。しかもメダル獲得のためには、予選・1ラウンド・順位決定と3回走る必要があり、体力が要求される。

男子チームパーシュートには石井(白河実業)・佐藤(九州学院)・河野(榛生昇陽)・清水(横浜)が出場し、4分18秒861でゴールしたが、ベスト8に残るには4分1桁台が要求される。

男子チームスプリントは中野(紫波総合)・山根(倉吉西)・磯島(八戸工業)が出走。予選では第1走の中野がスタートでタイミングを外したが、8位に入って1ラウンドへ進出。46秒



男子チームスプリント

641と日本ジュニア記録をわずかに更新したもようだが、対戦相手のロシアは44秒209と、世界の壁は高い。

女子スクラッチは参加人数から予選がなく、日本からは石上(横浜創学館)が出場した。一定のペースで周回が重ねられ、何度か逃げを試みられるが成功しない。残り2周から集団のスピードは上がり、大人数でのケイリンそのものである。石上は集団後ろから前に進めず20位でフィニッシュした。

国内とは大きく環境が変わり、長時間の渡航、言葉や文化の違いへの対応、そして食事環境が選手のパフォーマンスを左右する。本年の世界選手権は参加国42か国、参加者数男女合わせて797名と、過去最高の参加者数で行われている。

大会は3日目に入り、個人種目を中心に競技が行われた。競技場内ピットは気温が高く、コンディションとしては良くない。また、昨日ケイリンで落車した山根(倉吉西)はギリギリまで回復を待たしたが、無念の棄権することを決めた。一方、中野(紫波総合)は若干首に痛みは残るもののスプリントに出場することにした。

女子オムニウム予選1組に山口(鹿町工業)が出場。レースは集団後方に位置して様子を伺う形となった。集団走行の不慣れからくる、落車への心配であろうか。経験の少ない、日本女子の課題を露呈している。その中でスキを見て山口は逃げ集団にのり、集団をLAPして予選通過した。その後、テンポレース、スクラッチ、エリミネーション、ポイントレースと続くが総合15位で終わった。

男子スプリント予選に中野が出場、

10秒431で12位。1/16決勝で韓国選手と対戦して勝ち上がったが、1/8決勝ではポーランドの選手と対戦し、悔し涙をのんだ。やはりハロントタイムの優劣が勝敗に影響するし、国内大会では1種目の出場制限が多く、課題の一つとして感じさせる。

男子個人パーシュートには石井(白河実業)と河野(榛生昇陽)が出場した。それ

ぞれ全力を出し切る走りを見せるが、3分28秒と27秒でトップとは10秒以上の差がある。順位決定戦では每周中央ラインの通過による優劣で観客は熱狂し、人気の高さを感じさせた。

ポイントレースには佐藤(九州学院)が出場した。予選1組に出場した佐藤は6点を獲得して、8位で決勝へ進出を決めた。決勝では残り56周、佐藤が単独アタックして集団をリードする。2回目のポイントで2点を獲得し、逃げ集団5名の中に入り健闘している。その後、集団をLAPして電光掲示板に4位と表示され、3位とは2点差でメダルの可能性が浮上した。しかし、佐藤より上位の選手は常に前で勝負し、走行距離25kmを過ぎても平均50km/hを超えるスピードは簡単には逆転を許してくれず、最終得点26点で4位で終わった。女子も同様であるが、各ポイント周回で5点を獲得するスピード、果敢に自ら積極的に仕掛ける走りが、日本国内のレースには不足していると感じた。先頭逃げ集団から落ちてくる選手はおらず、単独で先頭集団に追いつく展開は、中々日本では見ることができない。その中でメダルは逃してしまったが、今回の佐藤の走りは評価が高いと感じた。また、ドーピング検査対象を宣告され、インスペクターとの会話も簡易英語が海外レースでは必要であるが、対応に苦慮する様子はなかった。

男女各10種目が行われる大会も4日目を向かえた。競技は12時開始の男子オムニウム予選からで、佐藤健(九州学院)が2組に出場した。佐藤は集団にいながらも常に前方をキープし積極姿勢を見せる。残り55周、自ら

単独で逃げを試みるが吸収されてしまう。1回目のポイントをイタリア、韓国、ポーランド、フランスがとり周回を重ねる。3回目ポイントで1点を獲得し、残り30周では佐藤を含む5名でLAPに成功。20点の高得点をあげて予選を通過した。

続くスクラッチは、大集団でゴール勝負の中、数名選手が落車。なんと1名はフェンスの外に自転車ごと放り出されてしまう。佐藤はスクラッチを4位でゴールシテンポレースへと進む。4名がスクラッチでの落車で欠場した。レースは5周以降先頭競技者のみに1点が与えられるが、デンマークの選手がハイスピードで4回連続ポイントを獲得できず順位を落としてしまう。エリミネーションそしてポイントレースで逆転のメダル獲得を狙うが14位で終わった。

500m タイムトライアル、本年ナショナルジュニアは女子短距離のパフォーマンスが劣り、短距離の派遣は見送る予定であった。しかし、直前合宿のトレーニング等で36秒台を出している松本を出場させた。予選が行われ上位8名を選出するが36秒881で17位。決勝では優勝が33秒台で、メダル獲得には34秒台が必要となる。

女子ポイントレース決勝、ローリング中に落車が発生したため再スタート。その後も落車が続き、再スタートを3回行うといった状況であった。予選がなかったため牽制が続く中スプリント合戦となるが、松井は中々参戦できない。途中、単独で逃げを試みるが、一気に集団を引き離すダッシュ力は無く、それが日本女子選手の課題でもある。また、集団密度の濃い中で体の接触が起こり、これも国内レースでは経験できない状況である。最終順位は13位で終わった。

2km 個人パーシュートには、松本詩乃(日体大)と池上あかり(祐誠)が出場。池上が2分31秒468、松本が2分32秒460で19位と20位であった。メダル圏内を狙うためには最初の1kmを1分10秒台で入り、2分20秒台の走力が必要である。

大会もいよいよ最終日を向かえ、日本選手の残る種目は1km タイムトライアル。磯島成介(八戸工業)と中

野慎詞(紫波総合)の2名は高校トップスプリンターであり、磯島は全国選抜で同種目優勝。一方中野は先に行われたインターハイで優勝し期待がかかる。予選バックスタートの中野は52×14のギアで臨み、最初の周を19.2、続いて13.9秒と快調に飛ばす。ゴールタイムは1分04秒137で最終順位14位。続いて6組ホーム側から出走した磯島は51×14を使用し19.4秒、14.2、14.9、16.0とラップを落とし、1分04秒727の21位でおわった。ベスト8に残るには1分3秒台、メダル圏内は1分2秒、優勝したロシア選手は1分1秒であった。

大会は様々な演出が施され、大音量の音楽が流れる中で、順位決定の部分は夕刻過ぎに行われる。仕事を終えたファンが観戦しやすい時間帯に競技は行われ、観客重視の姿勢は日本と大きく異なる。活躍が目立った地元イタリア選手団は一時低迷期があり、復活のため総力を挙げて奮起したらしい。短期間でも選手強化は成功する。

また、大会が終了すると2017ジュニアトラック強化チームは解散となり、世界選ロードが終了すると新たな選手とスタッフによる新体制で臨む。直面する課題、解決すべき問題は山積されるが、刻々と近づいている東京五輪を見据えて尽力したい。
(ジュニア強化育成部会長 折本 裕樹)

【競技結果】

2017UCIジュニア・トラック世界選手権大会 (2017/8/23-27 イタリア・モディネーリ)

男子スプリント

1	HELAL Rayan	FRA
2	NESTEROV Dmitry	RUS
3	BRISTER James	AUS
	中野 慎詞 岩手 紫波総合高 1/8F 敗退	
	山根 慶太 鳥取 倉吉西高校	DNS

男子1km タイムトライアル

1	PERCHUK Pavel	RUS	1:01.768
2	HINZE Carl	GER	1:02.403
3	OGLE Jackson	NZL	1:02.756
14	中野 慎詞 岩手 紫波総合		1:04.137
21	磯島 成介 青森 八戸工高		1:04.727

男子ケリ

1	PERCHUK Pavel	RUS
2	ROCHNA Daniel	POL
3	BRISTER James	AUS
	山根 慶太 鳥取 倉吉西高校 1回戦敗退	
	中野 慎詞 岩手 紫波総合高 1回戦敗退	

男子3km 個人パーシュート

1	PRICE-PEJTERSEN Johan	DEN	3:15.856
2	YOUNG Xenon	IRL	3:16.591
3	GONOV Lev	RUS	3:17.407
28	河野 翔輝 奈良 榛生昇陽		3:27.239

32 石井 洋輝 福島 白河実高 3:28.997

男子スクラッチ

1	BABOR Daniel	CZE
2	PROKOPYSZYN Filip	POL
3	RUIZ Ivan Gabriel	ARG
18	佐藤 健 熊本 九州学院高校	

男子ポイントレース

1	KANAKA Oleg	UKR	38p
2	GERASIMOV Ivan	RUS	30p
3	MURPHY Jb	IRL	29p
4	佐藤 健 熊本 九州学院高校		26p

男子チーム

1	JOHANSEN Julius	DEN	117p
2	CUFF Stephen	AUS	109p
3	TSIMOSHYK Uladzislau	BLR	96p
14	佐藤 健 熊本 九州学院高校		56p

男子チームスプリント

1	ロシア	44.355
2	ドイツ	45.314
3	ポーランド	45.049
8	日本 中野・山根・磯島	46.641

男子チームパーシュート

1	ロシア	4:01.675
2	デンマーク	4:03.928
3	ニュージーランド	4:03.044
13	日本 河野・清水・佐藤・石井	4:18.861

女子500m タイムトライアル

1	GROS Mathilde	FRA	33.937
2	FRIEDRICH Lea Sophie	GER	34.301
3	TYSHENKO Yana	RUS	34.625
17	松本 詩乃 東京 日本体育大		36.881

女子2km 個人パーシュート

1	ANDREWS Ellesse	NZL	2:19.038
2	PATERNOSTER Letizia	ITA	2:19.641
3	PIRRONE Elena	ITA	2:22.626
19	池上あかり 福岡 祐誠高校		2:31.468
20	松本 詩乃 東京 日本体大		2:32.460

女子ケリ

1	GROS Mathilde	FRA
2	VAN DER PEET Steffie	NED
3	KIM Hyesu	KOR
	山口 伊吹 長崎 鹿町工業高校	DNS

女子スクラッチ

1	FIDANZA Martina	ITA
2	DE ZOETE Mylene	NED
3	MARTIN-WALLACE Alexandra	AUS
20	石上 夢乃 神奈川 横浜創学館高校	

女子ポイントレース

1	COLES-LYSTER Maggie	CAN	41p
2	NOVOLODSKAYA Marii	RUS	29p
3	CONSONNI Chiara	ITA	29p
13	松井 優佳 鹿児島 南大隅高校		0p

女子チーム

1	PATERNOSTER Letizia	ITA	125p
2	COLES-LYSTER Maggie	CAN	115p
3	DE ZOETE Mylene	NED	112p
15	山口 伊吹 長崎 鹿町工業高校		26p

女子チームパーシュート

1	イタリア	4:21.554
2	ニュージーランド	4:27.610
3	フランス	4:30.749
10	日本 池上・山口・松井・松本	4:49.639

競技大会結果

大会名、チーム名等については略して記載

第58回全日本学生選手権トラック自転車競技大会 (2017/7/1-2 静岡・伊豆パドローム)

男子スプリント

- 坂井 洋 日本大学
- 堀 航輝 鹿屋体育大学
- 田中 克尚 早稲田大学

男子1kmタイムトライアル

- 山本 修平 日本大学 1:03.635
- 小原 佑太 朝日大学 1:03.755
- 橋本 壮史 中央大学 1:04.593

男子ケリ

- 山根 将太 中央大学
- 松岡 辰泰 日本大学
- 東矢 圭吾 中央大学

男子4km個人バースト

- 松本 憲斗 鹿屋体育大学 4:33.540
- 安田 開 日本体育大学 4:42.170
- 松下 綾馬 京都産業大学 4:34.980

男子スクラッチ

- 中村 賢人 朝日大学
- 山下 祥平 日本体育大学
- 池西 拓海 明治大学

男子ポイントレース

- 曾我部厚誠 京都産業大学 62p
- 荒井 祐太 法政大学 43p
- 安田 京介 京都産業大学 41p

男子タチメスプリント

- 早稲田大学 中井 琢・安倍大成
- 法政大学 鈴木陸来・高橋綜一郎
- 日本大学 照井拓成・山本和輝

男子マシ

- 京都産業大 樋口峻明・中井唯昌 51p
- 日本大学 岡本 隼・草場啓吾 30p
- 京都産業大 曾我部厚誠・吉岡衛 12p

女子500mタイムトライアル

- 岡本 二菜 日本体育大学 36.506
- 梶原 悠未 筑波大学 36.775
- 松本 詩乃 日本体育大学 37.256

女子スプリント

- 岡本 二菜 日本体育大学
- 清水 知美 八戸学院大学
- 西島 叶子 鹿屋体育大学

女子3km個人バースト

- 梶原 悠未 筑波大学 3:42.849
- 橋本 優弥 鹿屋体育大学 3:43.671
- 古山 稀絵 日本体育大学 3:46.701

女子ポイントレース

- 梶原 悠未 筑波大学 55p
- 橋本 優弥 鹿屋体育大学 37p
- 古山 稀絵 日本体育大学 30p

第4回JICF国際トラックカッ (2017/7/15-16 長野・松本市美鈴湖)

男子エリートチーム

- HASHIMOTO Eiya 140p
- CHIKATANI Ryo 135p

3 IMAMURA Shunsuke 127p

男子エリートスプリント

- SHARAPOV Alexander RUS
- SAKAI Yo NIHON UNIV
- KIM Kwangkune KYUNGWOON UNIV

男子エリート1kmタイムトライアル

- KIM Juncheol KYUNGWOON 1:04.638
- SUZUKI Riku HOSEI 1:04.682
- HATTA Tomoya NIHON Univ. 1:04.783

男子エリートマシ

- CS Slinger SHIMMURA/SAWADA 48p
- NKG HASHIMOTO/KOBAYASHI 43p
- HOSEI Univ ARAI/WATANABE 21p

男子エリートチームスプリント

- KYUNGWOON UNIV 1:01.607
- KANOYA HORI/KISHIDA/MANABE 1:02.009
- ASAHI-B HASEBE/SHIDA/OBARA 1:41.766

男子エリートチームバースト

- KYOTO SANGYOU UNIV 4:21.430
NAKAI/MATSUSHITA/SOGABE/YOSHIOKA
- ASAHI UNIV-A 4:21.640
NAKAMURA/SASAKI/URATA/KURIYAMA
- KYUNGWOON UNIV 不戦勝

男子エリートケリ

- SHARAPOV Alexander Russian National
- OBARA Yuta ASAHI UNIV-B
- MIZUTANI Tsubasa ASAHI UNIV-B

男子エリート個人バースト

- WATANABE Shotaro Aisan R. 4:39.362
- KAIHARA Ryota NIHON Univ 4:41.363
- ABE Masahiro NIFS KANOYA RJ

男子エリートタチメスプリント

- ASAHI UNIV-B UNEKI/NAKAMURA
- NIFS KANOYA KUGIO/HORIE

男子ジュニアスプリント

- SUGIOKA Yuki SAITAMA-B
- CHEN Yi Hsuan Taoyuan Cycling
- KOMATSU Hirotake Matsumoto Tech. A

男子ジュニア1kmタイムトライアル

- SAKUMA Kiyotaka SAITAMA-A1:08.532
- CHEN Yi Hsuan Taoyuan 1:10.548
- SUGIOKA Yuki SAITAMA-B1:10.594

男子ジュニアチームスプリント

- SAITAMA-A 1:08.755
NISHIYAMA/SAKUMA/WATANABE

男子ジュニア個人バースト

- SONODA Daichi SAITAMA-B RJ
- KONOMURA Ryunosuke Matsumoto Tech.B
- SATO Shun SAITAMA-B RJ

男子ジュニアスクラッチ

- SAKUMA Kiyotaka SAITAMA-A 14:19
- WATANABE Takuma SAITAMA-A
- SONODA Daichi SAITAMA-B

男子ジュニアチームバースト

- SAITAMA-B 4:47.792
IKEDA/SUGIOKA/SATO/SONODA

女子エリートチーム

- OKAMOTO Nina NSSU-A 153p
- ITO Mao NSSU-A 143p
- LI Yin Yin Hong Kong 141p

女子エリートスプリント

- VOINOVA Anastasiia Russian National
- OKAMOTO Nina NSSU-A
- MA Wing Yu Hong Kong Cycling

女子エリート500mタイムトライアル

- NISHIJIMA Kanoko KANOYA 37.583
- MA Wing Yu Hong Kong 37.656
- LI Yin Yin Hong Kong 37.886

女子エリートチームスプリント

- Hong Kong Cycling Team 47.992
- Team Senter-Merida 48.143

女子エリートケリ

- VOINOVA Anastasiia Russian National
- MA Wing Yu Hong Kong Cycling
- NISHIJIMA Kanoko NIFS KANOYA

女子エリート個人バースト

- SAKAMOTO Honoka ASAHI UNIV-A RJ
- CHANG Ya Wen Senter-Merida

女子ジュニア500mタイムトライアル

- FUJITA Maria SAITAMA-A 37.785
- SAKATA Mone SAITAMA-A 42.456

女子ジュニアチームスプリント

- SAITAMA-A FUJITA/SAKATA 41.364

女子ジュニア個人バースト

- SAKATA Mone SAITAMA-A2:53.806

UCIケラフオールドワールドシリーズ第4回ニセウラシク (2017/7/8-9 北海道・ニセウ)

140km OPEN Men

- 田崎 友康 F(ト)麒麟山 R. 3:38:56
- 高岡 亮寛 Roppongi Express 3:39:06
- 森本 誠 GOKISO 3:42:32
- 中村龍太郎 イーメ信濃山形 3:43:55
- 井上 亮 Magellan Systems 3:44:00
- 岩島 啓太 MIVRO 3:44:03

140km OPEN Women

- 清水 朋美 ラグニールあづみの 4:40:47

70km OPEN Men

- 西谷 雅史 サイクルポイントオースト 2:04:35
- 菊川 実紀 Roppongi Express 2:07:03
- 今西 大地 パフォーマンス TOKYO 2:07:10
- 島野 翔汰 北星学園大附高 2:07:15
- Ryan McKay TEAM NISEKO 2:07:34
- 木村 公一 2:07:36

70km OPEN Women

- 藤村 祥子 cherry japan 2:08:27
- 榎本 美帆 2:15:53
- 米田 和美 Matsu Japa 2:16:49
- Yann Kai Oh Project852 2:16:59
- Fiona Yard 2:19:33
- 村上 純子 玄米酵素 2:20:17

MTB CJ-1 田沢湖 XCO/DHI (2017/7/16-17 秋田・仙北市)

XCO男子エリート

- 平林 安里 長野 Specialized 1:18:09.77
- 平野 星矢 長野 Anchor 1:19:15.17
- 沢田 時 滋賀 Anchor 1:21:02.54

XCO女子エリート

- 小林可奈子 長野 安曇野 1:00:47.61
- 橋口 陽子 東京 轍屋 1:06:34.60

3 加納 尚子 三重 岩井商会 1:16:09.05

XCO 男子ジュニア

1 野村 拓未 長野 安曇野 1:13:34.82
2 積田 達 福島 Paxproject 1:14:17.18
3 橋本 青空 長野 安曇野 1:14:34.92

XCO 男子マスター

1 叶 英樹 福島 Saturday 58:32.65
2 澤田 泰征 東京 VOLCA 59:53.74
3 牧野 元 東京 Team ARI 59:58.59

XCO 女子マスター

1 北島 優子 千葉 ハワース 29:02.32

XCO 男子ユース

1 中島 渉 埼玉 Limited846 35:50.59
2 上野悠佑太 東京 GRM 36:35.75
3 板垣 健太 山形 Mogamba 48:48.79

DHI 男子リト

1 永田 隼也 神奈川 AKI Fact. 2:40.995
2 井手川直樹 神奈川 AKI Fact. 2:42.908
3 浅野 善亮 愛知 GIANT 2:43.644

DHI 女子リト

1 富田 敬子 奈良 Acciarpone 4:14.151
2 中川 弘佳 大阪 Lovespo 4:23.919
3 中川 瑤子 大阪 MILE 6:07.411

DHI 男子マスター

1 Paul GILSENAN 千葉 Nukeproof 2:54.293
2 Marc WYCKMANS AUS Kiroka 3:01.955
3 三山 孝幸 石川 FRS 3:12.851

DHI 男子ユース

1 秋元 拓海 福島 Paxcycle 3:02.026
2 石井 日高 神奈川 MARSH 3:02.040
3 山田 淳一 愛知 重力技研 3:15.436

DHI 女子ユース

1 小林あかり 長野 安曇野 4:11.833

JOC ジュニアリトルツカッツ

(2017/8/5-6 長野・白馬村)

男子 U18

1 松本 一成 長野 SCOTT 43:12.45
2 山口 創平 滋賀 ProRide 43:26.25
3 藤木 雄大 滋賀 ProRide 44:05.79

男子 U15

1 村上裕二郎 愛媛 DECOJA 29:49.24
2 山下 柊 北海道 TeamBG8 30:56.86
3 副島 達海 大阪 Limited846 31:26.28

女子 U18

1 小林あかり 長野 安曇野 35:55.46
2 松本 璃奈 長野 GRM 38:52.45
3 中島 悠里 山梨 maillot SY 40:09.53

女子 U15

1 渡部 春雅 神奈川 GIANT港北 34:28.70
2 中島 瞳 埼玉 Limited846 36:13.28
3 大蔵こころ 長野 ホンジャンユース 40:04.14

シマ/鈴鹿ロードレースクラシック

(2017/8/20 三重・鈴鹿サキット)

1 吉田 隼人 マトリックスパワータク 1:15:54.88
2 畑中 勇介 Team UKYO 1:15:55.34
3 鈴木 讓 宇都宮ブリックエン 1:15:55.44
4 中村龍太郎 1:15:55.66
5 木村 圭佑 シマルーシク 1:15:55.88
6 西菌 良太 プリヂェストンアンカー 1:15:55.95

第52回全国都道府県対抗自転車競技大会 (2017/8/24-26 福井・福井市 / 大野市)

男子スプリント

1 一丸 尚伍 大分
2 保田 浩輔 鳥取
3 晝田宗一郎 岡山

成年男子 1km タイムトライアル

1 新村 稜 茨城 1:06.878
2 碓 優太 福井 1:07.049
3 金田 聡士 鳥取 1:07.102

少年男子 1km タイムトライアル

1 黒瀬浩太郎 広島 1:06.352
2 北川 大成 熊本 1:07.844
3 中山 優 石川 1:08.441

成年男子ケリソ

1 堀江 省吾 長野
2 小林 清仁 東京
3 和泉 尚吾 愛媛

少年男子ケリソ

1 松本秀乃介 熊本
2 太田 龍希 埼玉
3 佐藤 威吹 岩手

少年男子ポイントレース

1 松崎 広太 茨城 18p
2 兒嶋 直樹 福岡 13p
3 馬越 裕之 奈良 12p

男子チームスプリント

1 愛媛 長野・柴崎・和泉 1:17.965
2 大分 一丸・下山・荒巻 1:18.552
3 岡山 晝田・服部・野上 1:19.525

男子チームポイントレース

1 富山 近谷・大浦・南儀・林 4:19.294
2 岐阜 佐藤・棚瀬・奥田・中村 4:24.522
3 福井 碓・廣瀬・梓元・齋藤 4:29.238

女子 500m タイムトライアル

1 前田佳代乃 京都 35.985
2 柳原 真緒 福井 36.461
3 増田 夕華 岐阜 38.449

女子ポイントレース

1 中原 恭恵 広島 20p
2 太郎田水桜 東京 19p
3 成海 綾香 鹿児島 14p

女子チームスプリント

1 福井 柳原・中村 58.552
2 福岡 森・内野 1:00.856
3 埼玉 飯田・高橋 1:00.804

男子個人ロードレース (93.9km)

1 中島 康晴 福井 2:30:04.6
2 阿曾 圭佑 三重 2:30:04.9
3 水野 恭平 山梨 2:31:16.7
4 依田 翔大 山梨 2:31:16.9
5 白石 真悟 山口 2:31:17.6
6 片桐東次郎 東京 2:31:17.7

女子個人ロードレース (48.9km)

1 中村 愛子 福井 1:31:05.8
2 中富 尚子 熊本 1:31:06.1
3 川嶋 百香 三重 1:31:06.2
4 小口加奈絵 栃木 1:31:06.3
5 川上 唯 徳島 1:31:06.3
6 中原 恭恵 広島 1:31:06.4

男子総合

1 愛媛 37p 2 茨城 36p 3 福井 33p

女子総合

1 福井 31p 2 埼玉 25p 3 熊本 17p

日本自転車競技連盟 専門委員会委員一覧

総務委員会

(担当: 飯坂専務理事)

委員長 渡辺俊太郎
副委員長 松倉 信裕
委員 黒川 剛
高橋 真
大池 新次

選手強化委員会

(担当: 佐久間副会長)

委員長 中野 浩一
副委員長 松倉 信裕
委員 金古 将人
高橋 博
三宮恵利子

競技運営委員会

(担当: 林副会長)

委員長 高橋 博
副委員長 飯田 太文
委員 小野口裕朗
坂井田米治
早坂 和広

広報委員会

(担当: 飯坂専務理事)

委員長 小野口裕朗
副委員長 松村 正之
委員 中田 将次
大池 新次
村田 隆宣

医事委員会

(担当: 林副会長)

委員長 中梶 秀則
副委員長 奥田 悦司
委員 高橋 真
熊井 司
内田 彰子
笠師久美子

アンチ・ドーピング委員会

(担当: 佐久間副会長)

委員長 金古 将人
副委員長 中田 将次
委員 三宮恵利子
坂本 陽一
笠師久美子

連盟の動き (7月中旬～9月中旬)

7月 9日 第3回トラック中距離強化合宿	於：静岡・伊豆ペロドローム (～13日)
31日 第2回総務委員会	於：東京・JCF会議室
8月 1日 トラック短距離強化合宿	於：静岡・伊豆ペロドローム (～11日)
7日 第4回トラック中距離強化合宿	於：静岡・伊豆ペロドローム (～11日)
12日 ガールズサマーキャンプ2017	於：静岡・日本競輪学校・日本CSC (～18日)
16日 第1回広報委員会	於：東京・JCF会議室
29日 第2回選手強化委員会	於：東京・JCF会議室
30日 第3回総務委員会	於：東京・JCF会議室
9月 4日 第5回トラック中距離強化合宿	於：静岡・伊豆ペロドローム・JISS (～13日)
5日 第2回常務理事会	於：東京・JCF会議室
第1回選手強化本部会	於：東京・JCF会議室
6日 第3回競技運営委員会	於：東京・JCF会議室
第5回理事会	於：東京・自転車総合ビル 601 会議室
13日 第1回アンチ・ドーピング委員会	於：東京・JCF会議室
15日 第3回広報部会	於：東京・JCF会議室

今後の大会予定

期日	大会名	種目	場所
10月1日～5日	国民体育大会自転車競技	RR/TR	愛媛県・松山市/今治市
10月7日～8日	Coupe du Japon やまぐち十種ヶ峰国際 DHI UCI-C2	MTB	山口県・山口市
10月13日～15日	Coupe du Japon CJ1富士見パノラマ DHI, XCO	MTB	長野県・富士見町
10月21日～22日	Coupe du Japon クロスカントリーレース in 深坂自然の森 XCO	MTB	山口県・下関市
10月21日～22日	ジャパン・カップ・サイクルロードレース	RR	栃木県・宇都宮市
10月28日	第51回JBCF経済産業大臣旗ロードチャンピオンシップス	RR	群馬県・群馬CSC
10月28日～29日	CJ2 京都ゆふねSTAGE XCO	MTB	京都府・和束町
10月29日	第13回全国ジュニア自転車競技大会	RR	三重県・四日市市
11月4日	2017ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム	RR	埼玉県・さいたま新都心周辺
11月4日	2017 東京都 大島三原山ヒルクライム大会	RR	東京都・大島町
11月5日	2017 全日本マスターズ選手権 個人タイムトライアル・ロード	RR	東京都・大島町
11月12日	ツール・ド・おきなわ	RR	沖縄県・北部
11月18日～19日	ひたちなかBMX国際大会	BMX	茨城県・国営ひたちなか海浜公園
11月17日～19日	ジャパン・パラサイクリング・カップ2017	PARA	静岡県・伊豆ペロドローム
11月18日～19日	全日本選手権自転車競技大会-マスターズ	TR	静岡県・伊豆ペロドローム
11月19日	全日本選手権自転車競技大会-オムニウム	TR	静岡県・伊豆ペロドローム
11月24日～26日	UCI世界選手権大会-室内自転車競技	Indoor	オーストリア
12月9日～10日	全日本選手権自転車競技大会-室内自転車競技	Indoor	東京
12月10日	全日本選手権自転車競技大会-シクロクロス	CX	TBC

新しい翼で、世界の空へ。

member of oneworld



JAPAN AIRLINES

JOC ジュニア オリンピック カップ

JOC カップ受賞は
男子：保田 浩輔
女子：増田 夕華



男子ジュニアのスプリント決勝



女子ジュニアのIPの増田



男子ジュニアのケイリン決勝、あと1周



男子ジュニアのスクラッチ

男子 U17 の 1kmTT の市田

女子ジュニアの 500mTT の小泉



女子 U17 の 500mTT の岩元



女子ジュニアのポイントレースの中富 女子ジュニアのスプリント決勝



女子 U15 の IP の石上

男子ジュニアの IP の松田

女子 U17 の IP の菅原



8月19日～20日、伊豆ベロドロームでJOCジュニアオリンピックカップが開催された。直後にイタリアで行われるトラックジュニア世界選の派遣が重なるため、残念ながら一部の選手が参加できない中での大会だった。

男女優秀選手に授与されるJOCジュニアオリンピックカップは、男子が保田浩輔、女子は増田夕華が受賞した。

【競技結果】

JOCジュニアオリンピックカップ
(2017/8/19-20 静岡・伊豆ベロドローム)

JOCジュニアオリンピックカップ受賞者

男子：保田 浩輔 鳥取
女子：増田 夕華 岐阜

男子ジュニア スプリント

- 1 保田 浩輔 鳥取 倉吉西高校
- 2 長田 龍拳 静岡 星陵高校
- 3 小畑 勝広 茨城 取手第一高校

男子ジュニア 1kmTT

- 1 保田 浩輔 鳥取 倉吉西高校 1:04.902
- 2 朝倉 智仁 茨城 取手第一高 1:06.047
- 3 太田 龍希 埼玉 川越工業高 1:06.941

男子ジュニア ケリソ

- 1 晝田宗一郎 岡山 岡山工業高校
- 2 篠田 幸希 群馬 日本体育大学
- 3 朝倉 智仁 茨城 取手第一高校

男子ジュニア 3km 個人パ-シュト

- 1 松田 祥位 岐阜 岐阜第一高校 追抜勝
- 2 佐藤 竜太 岐阜 岐南工業高校 OVT
- 3 棚瀬 義大 岐阜 岐南工業高 3:31.138

男子ジュニア スクラッチ

- 1 塩島嵩一郎 鹿児島 南大隅高 12:21.21
- 2 満田 光紀 熊本 日本体育大学
- 3 細田 悠太 鹿児島 南大隅高校



男子 U17 ポイントレース

男子ジュニア ポイントレース

- 1 日野 泰静 愛媛 松山城南高校 24p
- 2 兒島 直樹 福岡 祐誠高校 16p
- 3 小笠原匠海 東京 八王子桑志高校 12p

女子ジュニア 500mTT

- 1 小泉 夢菜 埼玉 早稲田大学 37.159
- 2 藤田まりあ 埼玉 浦和工業高 37.927
- 3 増田 夕華 岐阜 岐阜第一高 37.966

女子ジュニア スプリント

- 1 長石 悠里 鳥取 倉吉西高校
- 2 杉浦 菜留 愛知 岡崎城西高校
- 3 堺 菜奈 福岡 祐誠高校

女子ジュニア 2km 個人パ-シュト

- 1 増田 夕華 岐阜 岐阜第一高 2:36.406
- 2 高橋 吹歌 埼玉 筑大坂戸高 2:41.206
- 3 小口加奈絵 栃木 作新学院高 2:40.440

女子ジュニア ポイントレース

- 1 中富 尚子 熊本 千原台高校 45p
- 2 中島 悠里 山梨 甲府工業高校 26p
- 3 小口加奈絵 栃木 作新学院高校 12p

男子 U17 1kmTT

- 1 市田龍生都 福井 福井科学技 1:07.806

男子 U17 3km 個人パ-シュト

- 1 四宮 寛人 京都 北桑田高校 3:34.451

男子 U17 ポイントレース

- 1 木村 皆斗 茨城 取手第一高校 12p

男子 U15 1kmTT

- 1 中山遼太郎 熊本 SSPC 熊本 1:15.633

男子 U15 3km 個人パ-シュト

- 1 梅澤 幹太 愛媛 エキップユー 3:49.553

女子 U17 500mTT

- 1 岩元 杏奈 宮崎 都城工業高 38.066

女子 U17 2km 個人パ-シュト

- 1 菅原ななこ 宮城 東北高校 2:37.236

女子 U17 ポイントレース

- 1 飯田 風音 埼玉 川越工業高校 21p

女子 U15 500mTT

- 1 大野風貴芽 愛知 松原中学校 39.323

女子 U15 2km 個人パ-シュト

- 1 石上 琴乃 神奈川 Boardman 2:50.320

2017 UCI パラロード 世界選手権

WC3 TTで
野口が金メダル!



WC3 TT 優勝の野口を中心に、藤田(左)と川本



WC3 TT の野口

2017UCI パラロード世界選手権 日本代表選手団

大会名 2017UCI パラロード世界選手権
大会期間 2017年8月31日～9月3日
派遣期間 2017年8月27日～9月5日
開催場所 南アフリカ・ピーターマリッツバーグ
代表選手団

監督 権丈 泰巳 (JPCF強化スタッフ)
コーチ 佐藤 信哉 (JPCF強化スタッフ)
野口 泰 (JPCF強化スタッフ)
メカニック 黒川 邦彦 (JPCF強化スタッフ)
齊藤 健吾 (JPCF強化スタッフ)
トレーナー 小林 敦郎 (JPCF強化スタッフ)
栄養士 川上 絵里 (JPCF強化スタッフ)
スタッフ 小坂橋彩子 (JPCF強化スタッフ)
選手
MC2 川本 翔大 (広島・大和産業株式会社)
MC3 藤田 征樹 (茨城・日立建機株式会社)
WC3 野口 佳子 (東京・株式会社ウエルパーク)



WC3 TT の表彰式

【競技結果】

2017 UCI パラロード世界選手権

(2017/8/31-9/3 南アフリカ・ピーターマリッツバーグ)

- WC3 ロードタイムトライアル (15.5km)
1 野口 佳子 東京 ウェルパーク 26:17.23
MC3 ロードタイムトライアル (23.3km)
4 藤田 征樹 茨城 日立建機 34:26.88
MC2 ロードタイムトライアル (23.3km)
10 川本 翔大 広島 大和産業 37:37.26
WC3 ロードレース (48.6km)
3 野口 佳子 東京 ウェルパーク 1:31:33
MC3 ロードレース (60.7km)
6 藤田 征樹 茨城 日立建機 1:33:46
MC2 ロードレース (60.7km)
13 川本 翔大 広島 大和産業 1:42:06

Photo: JPCF/Ayako KOITABASHI

< JCF オフィシャル・スポンサー >



< オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.226 2017年8-9月号

発行/公益財団法人 日本自転車競技連盟

発行人/橋本 聖子

編集人/小野口 裕朗

編集事務局/公益財団法人 日本自転車競技連盟 事務局

〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-1 自転車総合ビル 5F

TEL 03-6277-2690 FAX 03-6277-2691 <http://www.jcf.or.jp/>